

インターネット公開許諾のない文章には墨消し処理を施しています。

仏の里の首長たち



随想

正 本 秀 雄

八月八日立秋、暦の上に秋はきたものまだまだ暑い日が続いている。それでも心なしか、朝夕は秋の気配が感ぜられる今日この頃である。いま頃になると、茹るような京都の暑さの中で、スクーリングに励んだ日のことがなつかしく思い出される。

私と佛大通信教育の出合いは、ヒョンなところにある。この町の小学校長に藤原力氏（現佛大通教同窓会大分支部長）が赴任してきた。彼はすでに通教生として勉学に励んでいた。そして、それだけでなく、自分の職場や郡内

の教職員にも資格取得の方法として通信教育を受けるよう推薦をしていたのである。

たまたま私方に見えて、私も勧誘された。しかし今更仏専卒が佛大卒になったからといって、次の選挙に無投票でパスするわけじゃない、給料が昇るわけじゃない、二の足をふんでいたら、一つは母校発展のため、一つにはあとに続く通教生の激励のためにも是非入れと熱心にかきく説かれた。私の名前を出すことが、どれほどメリットがあるかしらないが、プラスになるならば入りましようと言うことになった。爾来二ケ年、レポートに、スクーリングに悩みながら、諸先生、学友諸君に励まされ、昭和四十三年卒業することができた。働きながら学ぶことの苦しさ、そしてそれを乗りきった喜びも味わせてもらった。ここ国東半島は昔から六郷満山の仏教文化の華の開いたところである。人によれば、奈良・京都に勝るとも劣らない貴重な仏教文化遺産が温存されているという。秘境と言われる程の交通不便が、幸したようなものである。人口約五万の東国東郡は五ヶ町村から成っている。その首長に国見町（真宗）と武蔵町（浄土宗）の二人が僧職にある。本年四月の

首長選挙に国東町（禪宗）、安岐町（天台宗）に新人僧侶が初陣として、更に、私は五選にそれぞれいどんだ。仏の里にふさわしく五ヶ町村中、姫島村を除く四ヶ町で僧職町長なるかということで、マスコミの恰好のネタになった。結果は国東町当選、安岐町は落選し、私は五選を果たした。坊主に何ができるかという反面、この世知辛い世の中で、しかも田舎でそこそこの教養があり、清潔で、おだやかな人を選ぶとすれば坊さんがいいということにもなるであろうし、六郷満山の昔の再現を期待した有権者も少なくはなかったと思う。

巷間よく三悪僧とか、四悪僧とか言われる。うまくいけば四悪僧町長が出現し、和合の楽土建設に提携努力しようと思つたが、三悪僧に止まった。町村や、宗派の垣を越えて、人情と自然の豊かな町づくりに努力している。

私は昭和十二年仏専卒、十二年晋山、十三年応召、二十一年復員、二十六年町助役、三十三年町長初当選、今日に及んでいる。五期連続無投票当選の秘決を聞かれたら必ず「仏教精神を基調に和をもつてのぞんでいからだ」と答える。物と心の豊かな町づくりに今後共精進したい。（昭12・43年卒 武蔵町長）

座談会余瀾

— 縁起にふれる —

美女と聖僧を相手に、言いたい放題に喋り、消夏のひとときをすごせたことは楽しい思い出として残っている。あまり多く喋りすぎたので、本誌ではかなりの部分がオフレコになった。オフレコの中につぎのような話があった。

水谷 あなたたち二人は恋愛結婚ですか。

平田 さァ、マア恋愛でしょうネ。

水谷 どちらが先に好きになったの。

久我 どちらともなく自然にお互に……。

平田 好きだ、と言つたのは僕の方からだけれども、心は同時にお互に好きどうしになつていたように思うね。

久我 そう、そういうことですヨネ。

以心伝心というか、啐啄同時と言おうか、相依相関というべきか、心の琴線に触れるいわば縁起の世界を、そこにかいま見る思いがした。人間のほのぼのとした心のふれ合いにこそ縁起の実相があるのではないか。縁起はたんなる存在論でも認識論でもないのである。

（水谷幸正）

ニユースにならない

佛大生の水泳訓練

佛大に教育学科が開設されて二年目の昭和四十四年七月のこと。小学校の先生はすべて水泳や野外活動・レクリエーション等の指導もできるのが望ましいと考えて、「水泳・野外訓練実習」（通称「夏季ゼミ」といつて昨年から必修とした）の第一回を、本山の鵜飼隆玄執事が住職の敦賀の西福寺でおこなった時のこと。

土地の新聞記者が写真を撮らせてほしいと取材に来たが、一向に記事に載らないので問合わせると「趣旨は結構なんですけど面白くないので……」という。一般大学と同様に、色鮮やかな水着の男女学生で坊主頭の者もなく、ニユース性なしというわけか。それで佛教大学なら全員坊さんの卵で丸刈、衣姿の学生を期待した地方記者のマンネリ・センスと、佛大という名によるイメージの虚像とその実像に対するマスコミ対策の問題などを考えさせられた。

（小森健吉）